



JHFレポート

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

2000年2月号

2000年からのJHF

財団法人日本航空協会のフライヤー登録(航空スポーツ登録制度)のハング・パラフライヤー分がJHFに移管され、2000年1月1日に「JHFフライヤー会員登録」としてスタートしました。すでに新しい会員証を手にした人もいます。会員証に記された会員番号は、会員ひとりひとりの住所や取得技能証などのデータを管理するための大切な数字です。会員証が届いたら、紛失に備えて番号を写してください。

12月上旬に東京都港区新橋から文京区春日に移転したJHF事務局では、会員証や技能証発行等の業務が短時間に正確にできるよう、改革の真最中。乞う、ご期待。

以下は、フライヤー登録の移管に伴って2000年から変わったことです。

航空協会のハング・パラグライダーフ

ライヤー登録がなくなり、2000年1月1日にJHFフライヤー会員登録が始まった。

JHFフライヤー会員登録をすると、JHFの会員になり、居住する都道府県の連盟会員になる資格もできる。そのまま都道府県連盟の会員となるかどうかは、都道府県連盟によって異なる。

JHFの「会員」は、正会員(都道府県連盟)、フライヤー会員、賛助会員の三種。

フライヤー会員の会費は、1年間3,500円。3年間なら1万円。コンビニ4月更新分から)が郵便局で振込む。振込用紙は、フライヤー登録更新時に各人に送られる。また全国のスクールで手に入る。フライヤー会員登録手続きがその場でできるスクールもある。

フライヤー会員になると、第三者損害賠償責任保険に加入できる。保険の内容は今

までのフライヤー登録とほぼ同じだが、タンドムフライトも対象とするもの。

フライヤー会員には、JHFレポートが直接送られる。レポート代金と送料は会費に含まれる。但し、発行月の10日(事務局が休日の場合はその前の業務日)に発送リストを作るため、それ以降に会員登録をした人には、その次の号から送付される。まだフライヤー登録の更新にならない人は、これまでどおり、都道府県連盟を通してレポートを手に入れる。

事務局業務を効率よく行うため、また経費削減のため、JHF事務局を移転した。新住所は以下。

〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11 春日Shimaビル8階 TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312

フライヤー会員登録が始まった!

常設委員会の委員を募集

JHFには、七つの常設委員会があり、さまざまな問題に取り組んでいます。各委員は、ハング・パラグライディングの発展のため、それぞれの課題を設け努力してきましたが、この3月31日で全委員の任期が切れます。そこで、JHFでは来期委員候補を募集中です。私ならこうする、私はJHFのここを変えていきたいという前向きな意見を持っている人、大歓迎。ぜひ立候補を。問い合わせ・立候補の届けはJHF事務局へお気軽に。新委員の任期は、2000年4月1日から2年間です。

委員を募集する委員会は、以下の七つ。カッコ内は定員です。委員の選定は理事会で行われる予定。

- ・パラグライディング競技委員会(5名)
パラグライディング競技関係全般にかかわる業務を行う。世界選手権への選手派遣、日本選手権への審判員派遣、公認大会の

審査、ルールブックの改定など。

- ・ハンググライディング競技委員会(5名)
ハンググライディング競技全般にかかわる業務を行う。世界選手権への選手派遣、公認大会の審査、ルールブックの改定など。
- ・教習検定委員会(6名)
ハング・パラグライディングの教習・検定関係業務を行う。教員・助教員の育成、検定など。

・制度委員会(5名)
ハング・パラグライディング全般の制度関連業務を行う。JHF規程・制度の検討など。

- ・補助動力委員会(5名)
ハング・パラグライディングの補助動力関係全般にかかわる業務を行う。問題集の作成、技能証の見直しなど。
- ・安全性委員会(6名)
ハング・パラグライディングの安全にか

かわる業務を行う。登録機体の審査、事故調査、事故統計調査など。

- ・選挙管理委員会(若干名)
JHF役員選挙を管理する。

2000年度PG日本選手権は茨城で

12月理事会で、2000年のパラグライディング日本選手権開催地がようやく決まりました。これまで大きな大会が何度も開かれている、茨城県新治郡八郷町のスカイパークCooです。開催日は、4月12日から16日まで。悪天候などで不成立の場合は、10月6日から9日までの予備日に競技を行います。こここのところ不成立が続いたPG日本選手権ですが、これで新しいチャンピオン

の誕生を見ることができそうです。

八郷町周辺には多くのフライトエリアがあり、ビッグフライトの報告も多数あります。日本選手権にふさわしく、高度な競技展開が期待されます。

半月後に開催のハンググライディング日本選手権は、岩手県遠野市宮守村の遠野フライトエリアで、4月30日から5月5日まで。FAI カテゴリー2大会として申請中です。

空のかお

その29



大河原 秀暢(おおがわら ひでのぶ)さん
会社の先輩にハングに誘われ、始めてみたら.....、すっかりハングにはまってしまった大河原さん。フライト歴は3年。和歌山県の竜門山で海と関西空港を眺めながらのフライトを楽しんでいる。「これからはおNEWの機体を持って全国津々浦々飛び回りたい。」と元気いっぱい。大阪府在住。

県連ニュース

北海道ハンググライディング連盟

バラ、ハングの写真を募集!

イベント用ポスター、広報用パンフレット、報道等に使用する写真を募集します。撮影日や場所は問いません。サービスサイズで結構ですので、これは!と思うものをぜひお送りください。

被写体: パラグライダー、ハンググライダー(モーター付きを除く) 入選:10点(ネガ、ポジは後日提出。著作権は放棄していただきます。) 賞典: 商品総額3万円 ポイント: 機体が明瞭に写っているもの。背景、景色(平野、山、海、湖)が美しいことと青空であること。人物顔が強調されていないこと。比較的最近の機体であること。

締切: 2000年2月末 発表: 社団法人北海道スカイスports協会機関誌「あえる」6月号誌面 写真送り先・問い合わせ先: 〒005-0030 札幌市南区南30条西8丁目2-16 長谷川栄次 TEL.011-582-0790 FAX.011-582-1677

2月6日(日) 札幌の秀岳荘白石店で安全講習会を行います。

2月12日(土)・13日(日)の紋別流氷祭りの会場で、モーターパラで飛ばしませんか。パイロット募集中です。問い合わせ先: 吉野正規 TEL. & FAX.01582-3-7756

〔吉野正規〕

岩手県ハング・パラグライディング連盟 花巻空港公開日のイベントに参加

ちょっと古いニュースになってしまいましたが、9月23日(秋分の日)花巻空港において、「花巻空港公開日」ということで、一般の人たちにもっと飛行場に親しんでもらおうという催しがありました。岩手県連盟でも広報活動の一環として、昨年に引き続きこのイベントに参加しました。

我々のブースは飛行機の格納庫をお借りし、パラグライダーの展示、ハンググライダーの展示及びハンドリング、ハンググライダーの試乗、ビデオの放映等を行いました。ハンググライダー試乗は、格納庫の天井クレーンを利用して機体を1.5mぐらい持ち上げ、左右に移動させるものでしたが、子供たちに大人気で最後まで人がとぎれることがありませんでした。この子たちの中から将来のフライヤーが生まれてくれればいいかなと思いつつも、遊園地のオジサンになったような気がしたのは私だけ



ハンググライダー試乗は子供たちに大人気。

だったでしょうか。

ハンググライダーのハンドリングは、機体が重かったせいか、よい印象を与えられなかったようでした。ビデオは屋外のため映像がほとんど見えず、残念ながらこの企画は不発でした。

飛行場では他に管制塔の見学、飛行機の展示、飛行機と子供の綱引き、レスキュー隊のヘリを使ったデモ、アクロバット飛行などが行われました。我々は忙しくてなかなか自由の身になれず、他のブースには行けませんでした。迫力あるアクロバット飛行だけは見る事ができたので、満足。

岩手県では今年のゴールデンウィークにハンググライディング日本選手権の開催も控えているので、このスポーツに興味を持つ人たちが増えてくれることを願って、これからもいろいろな形で広報活動をしていきたいと思つています。〔野地秀一〕

宮城県ハンググライディング連盟

うまっこ山カップに一品持参でエントリーする11月14日、宮城県内で今年度開催されるパラグライダーの大会としては最後の「うまっこ山カップ」が、石巻市のうまっこ山エリアで行われました。今回で第10回を数えるこの大会は、草大会ながら県内で最も歴史のある大会となっています。

この大会には、ちょっと他と違う変わった特徴があります。その一つに「参加選手はエントリー費の他に賞品を一品提供すること」という条件があるのですが、その内訳がまた楽しみなのです。他の大会で獲得した賞品は序の口。仕事で扱っている商品あり、はたまた引越して出てきた?年前のお歳暮あり、いろいろなものが山のように集まります。

今年の目玉商品は「来年収穫されるサクラランボをドドンと1kg」というもの。山形県からエントリーされたサクラランボ生産者の方からの提供でした。

主催者から贈られる賞品は第1回目から変わることなく「お米」です。その「お米」のおかげで、この大会だけは奥さんからの激励を受けた「お父さんフライヤー」が数多く集まります。今回も好天好風に恵まれ、宮城・山形・岩手・秋田の各県から集まった67名が、大会を、そしてフライトを楽しんだ後、山盛りの賞品を抱え嬉しい一日と相成りました。

JHFレポート読者の皆さんも、うまっこ山カップに一品持参でエントリーしませんか。あなたの冬場のフライトエリアがもう一つ増えることでしょう。お問い合わせは下記へ。

〒986-0831 石巻市羽黒町2-2-41 宮城県ハンググライディング連盟事務局「うまっこ山ひこ〜たい」相澤満 TEL.0225-94-5127 FAX.0225-94-8134 〔川越敏明〕

兵庫県フライヤー連盟
兵庫県スカイフェスティバル報告

10月30日(土)・31日(日)に、兵庫県朝来郡朝来町さのう高原において「兵庫県スカイフェスティバル」が行われました。

30日は、翌日の本番に備えて練習。天気は晴れ。やや強めの北風で、南向き斜面のさのう高原では好条件とはいえないものの、大勢が飛んで獲得高度競争が始まりました。夕方からは前夜祭と称し、立食パーティー。キーボードとマリンバの演奏とともに、盛り上がりは最高潮に。恒例のジャンケン大会で賞品をめぐる争いがあつつも楽しく過ごすことができました。

そして、待ちに待った31日。300人以上が集まり、あまりの人の多さにちょっと驚きましたが、大会に出場する選手の意気込みがひしひしと伝わってきました。競技内容は、コラムターゲットと自己申告セットタイムの二通り。コラムターゲットでは、参加12チームのなかで、UP JAPANが1位。2位はスノウハント、3位はさのう高原PGS。自己申告セットタイムでは、ダントツでTAKチームが1位。2位はJMBおじろ、3位はスカイアンタックでした。

お昼ご飯には、地元の方々のご協力で、さのう鍋と栗ごはんを用意してもらい、500円で食べ放題。締めくくりは、表彰式と全員参加の抽選会、ジャンケンゲームで大いに盛り上がりました。これも協賛各社や地元の方々のご協力のおかげです。

こんな素敵な大会が、これからもずっと続き、空を愛するフライヤーがもっと増えたらいいなと思つました。



こんな楽しい大会がずっと続くといいなあ。

福岡県ハング・パラグライディング連盟 定期総会のお知らせ

福岡県HG・PG連盟では、2000年1月23日に「定期総会」を開催します。

場所は、米の山の麓の「クリエイティブ」で、今回はまだ、テーマは決まっていますが、毎回、救急法に関連したセミナーも開催しております。当日入会も受け付けますので、どなたでもお気軽にご参加ください。〔越智善治〕

鹿児島県ハング・パラグライディング連盟 亀ヶ丘エリアでの県連大会報告

11月21日、鹿児島県連主催のハング・パラグライダー競技会を亀ヶ丘エリア(川辺郡大浦町)で開催しました。当日の参加者は18名。競技内容は、4ヶ所のランディング場を設け、テイクオフから一番近いラン

ディングに降りる場合は滞空時間、他3ヶ所に降りる場合は最遠のランディングにいちに早いタイムで行けるかを競いました。

当日は北東の風3m(正面の風)空は雲一つ無い晴天、コンディションも良く、今まで開催した県連主催の大会の中では、最高の出来でした。

11時にゲートオープンし次々と参加選手がテイクオフ。2回のフライトのうち、得点の高い方を有効としました。競技は、和気藹々とした中ですすめられました、午後からだんだん風が強くなり、一部の選

手は2回目のフライトができず、ゲートクローズとなりました。

大会結果(パラグライダー)

- 1位 野村 和弘
- 2位 黒木 芳秀
- 3位 佐尾 明宏
- 4位 大中原 忍
- 5位 木下 佳久

参加者数はわずかでしたが、亀ヶ丘をホームエリアにしている「チームガメラ」や大浦町役場の方々のご協力で、楽しい競技会となりました。東シナ海を前と後ろに望む

亀ヶ丘エリアでのフライトは格別のものがあります。〔黒木悦子〕



東シナ海を眺めながら飛べる亀ヶ丘エリア。

インタビュー

1998年・1999年度補助動力付PG日本選手権者

萩原 光

萩原光(はぎわらみつる)さんは1953年生まれ。千葉県出身・在住。25年ほど前、ハンググライディングを知り、すっかりのめりこむ。クラブを作り、ショップとスクールを開き、競技にも参加し、空の楽しさを追求。後にパラグライディングも始め、さらにモーターの付いたハングやパラグライダーも乗りこなす。1997年に開催された第1回補助動力付パラグライディング日本選手権3位。98年にはみごと優勝。そして99年、再び日本選手権を手にした。千葉県ハング・パラグライディング連盟の理事長もつとめる。

約25年前にハンググライダーで飛び始めてからずっと、東京湾観音エリアを中心に、いろいろな翼でフライトしてきましたね。

ハング、パラ、両方のモーター付きと、いろいろね。ショップとスクール(スカイエンジェル)をやっていて、このスポーツを商売にはしているけど、まず自分の楽しみのために新しいことを始めて、いつか仕事になってる。モーター付きのパラグライダーは日本で2番目に乗ったし、1番は荒井裕悟ね。メーカーと協力してモーターパラグライダーを作ったこともあるんだけど、当時は軽量化の時代で、ウケなかった。あれは今のエンジンぐらいの重さとパワーがあったからね。

あらためて考えてみると、ホントにハングとパラに関するものなら、何でもやる。空に浮いてれば何だっていいんだよ、早い話。ハングで飛んでいたから、パラグライダーが飛び始めた頃は、ちょっと見下すようなところがあった。でもパラをやってみると、ハングと変わらないのね。ハングもパラもモーター付きも無しも、みんな一緒だと思うんだ。基本は「空を飛んで楽しみたい」ってことなんだから。

だから、お客に「好きなヤツ何でもやれや」って言う。本当に何でもやってるお客さんもいるよ。お客は「先生がやることは正しい」と思ってる。その先生が「おもしろい!」と言ってるんだから、やってみたくなる。機体や装備をあれもこれも揃える



二度目の日本選手権者として表彰される。

のは、お金がかかるけど。とにかく、いつでもおもしろいことをやりたいし、やらせたい。

今年の補助動力付PG日本選手権は、萩原さんをはじめ、地元選手が上位にズラリと並びました。

ウチのメンバーが勝って当然だったね。開催地の富津岬は海辺のエリアだから、普段から海風で飛んでいない選手は不利だった。その点、地元の選手はしっかり練習していたから、勝って当たり前。でも、俺が勝つのは考えていなかった。

千葉県で「日本選手権」をやりたいって思ってたんだよね。ハングやパラの日選をやるにはエリアの条件が合わないけど、モーターパラグライダーならできる!というわけで、開催地に立候補して。だから「成立してくれ!」と、それだけ願ってました。自分が勝つことは頭になかった。

女性の選手も頑張りましたね。

モーター付きで飛んでる女性は少ないから、パラのパイロットを集めて、日本選手権のためにモーターパラの猛特訓をしたのよ。男ばかり50人いてもねえ……。女の子が4人いると「華」があるよ。

男も女も参加者が喜んでくれて嬉しかったし、役場の人たちに喜んでもらえたのが、とってもよかった。地元で認知してもらったこと、今後の可能性がふくらんでいくんだから。富津岬は北の浜と南の浜があって、南の方でやってくれと言われていたん

けど、風はまったく逆。それで北の浜にセッティングしたなんてこともあったんだけど……。

萩原さんは「実行の人」という気がします。いつも何かを考えていて、それを現実のものにしてしまう。

そうじゃなくて、まわりの人に恵まれるの。まわりから「こんなことをしたらおもしろいじゃないか」と意見が出て、じゃ、やろうかってことになる。正月に子ども会のイベントをやってるんだけど、これも誰かが言い出して、ヨシやろう!と始まった。鴨川のエリアで、子どもたちを集めて、ハングやパラの体験をさせたり、ゲームをしたり。これをやるようになってから、地元からの文句が出なくなったね。

もちろん、こんなどうだと口にするだけじゃなくて、みんなよく動いてくれる。人材に恵まれてるよね。日本選手権だっって何だって俺ひとりじゃ絶対できないもの。

まさにチームワークの賜物だったんですね。今年は千葉県の関宿滑空場で「スカイレジャー・ジャパン」が開かれます。また抜群のチームワークを見ることができそうですね。

そう、スカイレジャー・ジャパンもあるんだよ。だから、とっても忙しい。関宿滑空場は広いから、ハングやパラ、モーター付きも含めて、いろいろなことができると思う。みんな、遊びに来てください。5月13日と14日の週末だからね。待ってます!

新教員に聞く

ハング・パラグライディングの教員研修検定会が終わり、ハンググライディング5名、パラグライディング11名、合わせて16名の新教員が誕生した。

まず、10月に飛行実技の検定。これは、スクール生に見せる模範飛行が、きちんとできるかどうかをチェックする検定。正確な操作が要求されるのはもちろん、初心者によく理解してもらえるよう、わかりやすい動きをする必要がある。茨城会場で行われたハングの飛行実技検定は、5名が参加し全員合格。山形と茨城の会場で行われたパラは、14名が受け11名合格。当初予定されていた福岡会場での検定は、希望者が少なく、経費削減のため取りやめになった。

11月に茨城で行われた研修、教習実技と学科の検定は、ハングとパラ合同。同じ空域を飛ぶのだから、ハングだけ、パラだけではなく、両方の理解を深めてほしいと、昨年から一緒に行うようになったもの。

教習実技検定は、飛行実技と同様に、与えられたテーマのポイントをおさえ、わかりやすく説明できなければならない。正しいことを言っている、聞き取りにくい話し方では減点。4名参加のハングは全員合格、12名参加のパラは11名合格。

学科検定では、教員として必要な知識を持っているかどうか、チェックされる。ハング4名、パラ11名が受け、全員合格。

こうして三つの検定すべてに合格した人が、晴れて「教員」になる。昨年度から、1年で全検定に合格しなくてもいいことになったので、2年にまたがって三つの合格を揃えた人も。いずれにしても、新教員の皆さん、初めて空を飛んだ時の気持ちを忘れず、ご活躍ください。

*

できれば新教員全員の感想や抱負を聞きたいところだが、今回はそれぞれの検定で一番成績がよかった4名に、登場してもらおう。



大野修司（おおのしゅうじ）

愛知県でスカイスポーツショップ&スクール「スカイトライ」を経営。36歳。中学生の時にテレビで見て、やってみたいと思っていたハンググライディングを15年ほど前に始めた。パラグライディング歴も約8年。今回、ハングの飛行実技検定で一番の成績だった。

検定を受けた感想は？

実は、7～8年前にも受けたことがあるん

だけど、落とされた。あの頃に比べて今回は厳しさが足りないような気がしました。あとは、ハングの飛行実技がグランドハンドリングだけだったのが、ちょっと寂しかったですね。

今後の検定に望むことは？

今、検定は年に1回でしょ。もし都合が悪くて受けられなかったり不合格だったら、1年も待たなくちゃならない。間があきすぎて「頑張って教員になるぞ」という気持ちがあえちゃう。だから、もっと回数を増やして欲しい。せめて実技検定だけでも……実技だけなら遠くから何人も検定員を集めなくて済むから、経費もそんなにかからないはず。やる気があっても、1年も待つのはやっぱり長すぎますよ。

どんな教員でありたいですか。

第一に、事故を起こさない。スクール生は上をのぞみたがるけれど、小さなミスも見逃がさないで指摘してあげる。いいや、いいやで言わないでいると、間違っただけでその人にとって当たり前になっちゃうんです。相手がパイロットになってる人だと言わずにいけど、悪いところは悪いと言えるイントラになりたい。はっきり言うから嫌われたりしますけどね。とにかく事故が起きて欲しくないんです。



大澤行英（おおさわゆきひで）

京都府の「バースパラグライダースクール」校長。28歳。パラグライディング歴9年。一昨年まで大会にも力を入れていたが、昨年は大会に一度も出ず、スクールに全力投球している。パラグライダーの飛行実技検定で最も成績優秀だった。

飛行実技、自信ありましたか。

ええ、まったく心配することなく、自信がありました。インストラクターを5年やってきて、模範飛行は、やり慣れてましたから。

今回の検定の感想は？

受けに来ている方のレベル差が大きいと思いました。ハングの方や、昔からやっている人の考え方と、比較的新しい人の考え方がバラバラだったので……それぞれ独自の考え方があるとは思いますが、基本のところは、みんながしっかりと知識を持つようにしないとイケないなと思いました。すごい勉強してるなあという人もいれば、あんまりわかってない人もいましたから。やっぱり、みんながすごいなあと思われるようでないと。全国から集まった

人たちと何日か一緒にいて、いろいろ話し合えたのは、よかったと思っています。スクール間の情報交換もできましたし。

どんな教員でありたいですか。

偉そうにする教員は、いやですね。スクールに来ているお客さんが楽しめることを第一にして。楽しくないと、上達もしないし、お客さんは怒られに来てるんじゃないので、楽しみながら上達できる、そんなスクーリングをめざしています。あんまりうるさく言わず、とにかくほめて、おだてて。もちろん注意はするんですけど、パラグライディングが楽しいと思ってくれることで上達につながるし、長く続けられると思います。



高木 望（たかぎのぞむ）

茨城県の「S.E.T.茨城」でインストラクターをつとめる。31歳。仕事が忙しく、このままではダメになるからとパラグライディングを始めたのが6年前。やっているうちに楽しくなってサラリーマンを辞めた。1年ほど前からハンググライディングの練習も。今回の教習実技検定で、ただひとり満点を獲得した。

検定はどうでしたか。

スクールの現場で仕事をしている、そういう人間にとっては、あまり意味がないのでは……という部分もありました。飛行実技はできて当たり前をやってるだけですし。逆に、そういうことができない人がいたんでビックリしました。教員になろうというのに基本的なところができていない。教習実技は話がうまいかへたかで決まっちゃうんで、指導経験があまりなくて話すのがうまくない人にとっては厳しいですよ。経験を積んでいけば問題ないでしょうが。

今後の検定に望むことは？

今回は6日間かかって、土曜日から日曜日まででした。週末にかかる日程は、僕たち現場の者にはきついですね。そう言ったら、サラリーマンには都合がいいって言われましたけど。あとは、正直なところ「教員にはちょっと……」という人がチラホラいたので、合格ラインをもっと厳しくした方がいいんじゃないかと思います。「教員といっても、たいしたことない」と言われないように、もっとレベルを上げていかないと。それから、できれば3日間ぐらいでやってもらいたいですね。飛行実技の検定だけでも何ヶ所かで受けられるようにして

.....遠くから来る人はたいへんですから。「簡単に受けられるけど、合格するのは難しい」そんな検定であって欲しいです。



産本 元 (さんもとはじめ)

岡山県の「おおさネイチャークラブ」のインストラクター。25歳。幼い頃から空に憧れ、大学でパラグライディングのサークルを見つけ、すぐ飛び始めた。フライト歴6年。スクールのスタッフになって3年目。学科検定で一番の成績だった。

検定の感想をどうぞ。

勉強不足、練習不足だと思われる人が、けっこういました。グループで話している「うーん、ホントにそれでいいのかな」という人もいました。普段は自分のエリアだけで活動しているので、いろいろな人と、それぞれのスクールのノウハウを話せたのはおもしろかったです。グループ研修は悪くないと思いますが、ある程度の経験と知識を持っている者にとっては、メリットがそんなにないでしょう。結局は、その人次第なんです。頭の中でしっかりかみしめてないと、人に説明できませんから。

どんな教員をめざしますか。

基本は、安全を教えられること。非常に難しいけれど、信頼される教員になりたい。それができたら、もうそれだけで十分です。信頼を得るには、教え方だけでなく、人間性にもかかわってきますから、たいへんです。スクールのお客さんは十人十色。その人その人に合った対応をしていかなければなりません。会ってすぐ、そのあたりを判断するのが、難しいですね。スクーリング経験はともかく、人間としての経験が、まだまだですから。

最後に、教員研修検定会の実施にあたったJHF 教習検定委員会、島野広幸委員長に、検定会の感想等を話してもらおう。

今年度の教員検定が終わって、ホッとしているところですね。今回の参加者はどうでしたか。

受検者数は減っていますが、そのレベルは高くなっています。「そうは思わない」という人もいるでしょうが、何年も教員検定を見てきた、僕たち教習検定委員にとっては、確かにレベルアップしています。これまでの積み重ねから、研修や検定の内容を理解してもらえるようになったからかな。

参加者の能力に大きな差があると聞いていますが、どうでしょう。

能力の差は、かなりあります。エリア格差というか.....。日本には、いくつものフライトエリアがあるし、スクールもたくさんありますが、規模や条件は千差万別です。キャパシティの大きいところでは、大

勢のスクール生が来るから、指導する側は経験を積んで、いろいろ勉強して、力をつけていきます。一方で、ごんまりとクラブで活動しているような場合は、短期間に指導の経験を積むことはできないし、お手本にしたいけども教員がひとりもいないところもあるのです。

能力差を縮めるには.....

差を小さくするために、教員をめざす人の研修の場が必要だと思います。検定会ももっと時間をかけたりすべきなのではないかと、そうはいかないのが現実です。これからの課題は多いですね。

新教員になる16人に、ひとこと。

検定が終わったから、合格したから、もういいや.....というのは困ります。教員証を手にするということは、ゴールではなくてスタートなんです。これからも勉強を続けて、謙虚さを忘れず活動してください。

1999年度教員検定合格者(飛行実技・教習実技・学科の三検定すべてに合格した者)

- ハンググライディング
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 塚部 修一 | 野間 靖弘 | 大野 修司 |
| 伊藤 秀信 | 鈴木 実 | |
- パラグライディング
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 今泉 敦雄 | 高木 望 | 文字 英彰 |
| 産本 元 | 嶋田 高寛 | 和波うらら |
| 八幡 信雄 | 大澤 行英 | 水沼 典子 |
| 上野 陸 | 守屋 徹 | |
- (1月号1ページに「17名の新教員が誕生」と載せましたが、16名に訂正します。)

委員会の動き

PG 競技委員会 委員長 岡 良樹

新年明けましておめでとうございます。今年は、良い天候に恵まれ、思いっきり飛べることを祈ります。早速ですが、やっと、2000年度の日本選手権の開催地が決定しました。4月11日から16日までの6日間で茨城県のエアパーク Cool において行われます。万が一この期間中で不成立になった場合には10月6日から9日の日程で同じ場所で開催されます。これで、連続の不成立は3年で終わりとなるでしょう。

また、今年からルールの一部が改正されました。主なものは(1)ジャパンリーグおよびSPSの申請の期日がこれまでの大会開始の3ヶ月前から、大会エントリー締切日の2ヶ月前とする。(2)SPSのポイントが参加人数が50人に満たない場合に極端に少なくなる弊害を是正。(3)SPS 参加可能機体に関する項目でDHV2(ノーマルフライト時)から、DHV2に変更(つまり、アクセルを使用した状態でもDHVクラス2であること)。ただし、これまで参加できていた機体は今後も参加可能とする。(4)日本選手権のシード枠として学生選手権の上位3位までとしていたものを、学生枠として学連の推薦による3名と変更した。以上です。

HG 競技委員会 委員長 大澤 豊

1月8日～11日に開催された「第11回丹沢スカイグランプリHG大会」の結果をホームページに掲載しています。

また、4月30日～5月5日に岩手県遠野エリアで開催予定の日本選手権はFAIカテゴリー2にて開催の予定です。参加を考えている選手はFAIスポーティングライセンスの取得をされるよう準備をしておいてください。ライセンスを取得していないと参加できませんのでご注意ください。

また、2001年度日本選手権開催地の立候補がまだありません。開催をお考えの方は早急に届け出をお願いします。

尚、事務局にメールをくださいれば競技委員会インフォメーションをお送りします。
E-mail:haku@tomato.saino.ne.jp
http://tomato.saino.ne.jp/haku/JHF-HG.html

教習検定委員会 委員長 島野 広幸

昨秋の教員検定会が終了してから、委員会は開催していません。今は、少し活動がにぶっています。

今後の課題には、教員検定にかかる費用の削減や、教員資格の更新制度などがあり

ます。

JHF事務局の引っ越しも完了したようです。新しい事務局には会議室もあるので、これからはそこで委員会を開きます。

制度委員会 委員長 小林 秀彰

12月14日、移転したばかりのJHF事務局で委員会を開き以下のことを検討しました。

- ・優良パイロット表彰規程について
城委員から提出された案を検討。原案を理事会に提出することとする。
- ・JHF 規程集第1章について
沼田委員が電子ファイル化した文章をチェック。第1章「組織」の原案を検討。本委員会は、全規程・規約を会員が簡単に知ることができるよう、JHFのすべての規程・規約を規程集第1章に掲載することを、理事会に要望することとする。
- ・トイイング技能証について
技能証としての規程は当分見送る。
- ・各委員会の運営規程について
局、室、部、委員会の活動範囲、事業内容を明確に記したものが現在はないため、2月までに案を作成する。
- ・クロスカントリー技能証の見直しについて
フライヤーの意識調査を西ヶ谷委員が担当する。

ハロ-

パラグライディング (その9)

飛べない日には...

寒い朝、早起きをしてエリアに出かけるのは、ちょっとつらいですね。まして、頑張っただけで出かけていったのに、1日中風が強くてライズアップの練習さえできなかったり、飛べる!と思ったら、サーマル活動が強すぎ「待った」がかかったりしたら、がっかりです。そんなときは実技練習とは違う勉強をして、パワーアップを図りましょう。

今日飛べる?

エリアまでお金と時間をかけて出かけるのですから、これは重要な問題です。日本の冬と言えば、日本海側の地方では雪が降り、太平洋側は乾いた冷たい北風が吹きつけます。このようなときは「西高東低」といわれる冬型気圧配置になっています。この冬型を中心に、ある程度周期的に、気圧配置が移り変わっていきます。まず、自分のエリアがどんな気圧配置の時に飛べるのかを研究してみましょう。

南向きのエリアでは、冬型が強まったときには飛べないことが多いのですが、「だめだろう」と思っていた日に飛べたと聞いて

悔しい思いをすることも。結局はエリアに行ってみないとわからないので、初めのうちはとにかく出かけてみて、データを集めるといいでしょう。「今日は天気がいいからきつといいぞ!」と思って出かけるのと、「晴れてるけど冬型で北風強いし、飛べればラッキー」と思って行くのでは心構えが違うし、次第に、家の周囲の状況からもある程度エリアの風が予想できるようになるものです。

機材の点検と調整

もし、自分の機材を持っているのなら点検・調整をするチャンスです。機体ではまずキャノピーの傷やほつれの点検。裏、表よく見てみましょう。枯草や砂がエアインテークから入っていたら、取り除いておきます。そしてラインを1本ずつ念入りにチェック。材質によって点検法は少し違いますので、インストラクターに聞きましょう。ラピットリングのゆるみや変形、ライザーの傷も調べます。

ハーネスはベルトの調整をしっかりとします。冬は厚着になるので調整が必要になり

がちです。ハーネスの調整によって、同じ機体でも全く操作感が違ってきますので、念入りにやっておきましょう。実際にシミュレーターにぶら下がり、インストラクターに自分のフライト姿勢をみてもらってください。またアクセルフットバーの調整もしっかり行ってください。取り付けてはあっても、実際に踏込めないのでは役に立ちません。

万一のために携帯している「レスキューセット」。使い方は大丈夫ですか。「これを持って飛んでください」とインストラクターから渡されたまま、「中身も見ただけがない」ということにならないよう正しい方をマスターしておきましょう。

風が悪いときは、ふつうなら忙しく講習場を走り回っているインストラクターや、ベテランパイロットたちにも余裕ができてるので、普段できない細かいところまで面倒を見てくれるはず。普段から気になっていたことを尋ねてみましょう。ずっと快適に飛ぶためのヒントが見つかるかも知れません。

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

12月17日理事会

1999年12月17日(金)13時30分~18時
JHF事務局会議室 出席:川添喜郎・小林朋子・朝日和博・関谷暢人・横尾和彦・岩間雅彦・田中美由喜・星野納・松田保子・松永文也各理事、坂本三津也監事 欠席:渡邊敏久理事、宮川雅博監事 議長:小林朋子
JHF2000年度事業方針について審議

前回(11月18日理事会)からの継続審議。川添から、前回出された意見に沿って作り直した事業方針案が出され、これを審議。文言を修正したうえで可決。賛成9。この案を3月総会に議案として提出する。これまで行ってきた事業のほか、次の事業に力を入れていくことに。1-ハング・パラグライディングの活力ある振興の促進。2-広く国民に親しまれる魅力あるハング・パラグライディングの普及と振興。3-会員へのサービスの向上。4-教員の再教育及びスクールへの支援。5-フライヤーに役立つ安全性の普及。

JHF2000年度事業計画案について

次の議題「2000年度予算案の決定」が可決すれば、事業計画案も同時に可決するものとして、これだけの審議は行わなかった。

JHF2000年度予算案の決定について審議
朝日より、予算編成室作成の予算原案が提出され、これを審議。パラグライディング世界選手権派遣事業費として50万円積立て、ハンググライディング世界選手権派遣事業費としてプレ大会に48万円支出する件について、賛成6、反対2、棄権2で承認。普及推進室のJHFフェスティバル事業費に

50万円、アクロバット選手権調査事業費に10万円、厚生活動補助事業費に100万円の予算をつける件について、いずれも賛成9で承認。第2回セイフティーセミナーに150万円については、賛成6、反対2、棄権1で承認。但し、実行関係者が一企業に片寄らないよう参画を呼びかけることとする。補助動力委員会の請求235万円のところを40万円にする原案を、賛成6、反対1、棄権2で承認。教習検定委員会の教員更新研修に100万円の予算をつける件では、賛成7、反対1、棄権1で承認。広報出版局のHG教本制作(原稿料等含む)に157万円の原案に賛成は6、70万円案に賛成は2、棄権1で、157万円に。各常設委員会の事務費・雑費を、共通のものさしで計算した原案が出されたが、安全性委員会以外の5委員会の年間会議数を4回として計算することに賛成1、5回は賛成8で、5回で計算することに。フライヤー会員会費の正会員への回付金については、登録1件あたり650円とすることに賛成8、650円以下に賛成1で、650円とする。学生連盟への補助を20万円にする件は、賛成9で承認。総会に出席する正会員の旅費を100%支給することに賛成6、下げるに2、棄権1で、100%支給の原案を承認。申請料収入を99年度予算の15%減、フライヤー会員登録数を過去2年間平均の10%減として計算することを、賛成9で承認。以上の審議結果に基づき予算案を作成し、3月総会に議案として提出する。

FAIスポーツライセンス申請手数料について審議

横尾(事務局)より、スポーティングライセンスの申請手数料を1件1,000円とする案が出され、賛成9で可決。2000年1月1日から実施。また、申請に各都道府県連盟の推薦が不要であることを確認。

ルールブックの改正について審議

HG競技委員会とPG競技委員会からそれぞれルールブック改正案が出され、どちらも賛成9で承認。

PG日本選手権開催地立候補について

2001年のパラグライディング日本選手権開催地として、山形県ハング・パラグライディング連盟が立候補。1999年12月31日まで募集期間のため、次回審議事項に。また2000年日本選手権開催地として茨城県ハング・パラグライディング連盟が立候補。賛成9でこれを承認。茨城で開催に決定。

HG日本選手権のFAIカテゴリー2申請について審議

4月30日~5月5日に岩手県で開催予定のハンググライディング日本選手権を、カテゴリー2大会としてFAIに申請する案が松永(HG競技委員会)から出され、賛成9でこれを承認。

2000年3月総会の日程について

3月20日の週のいずれか。会場の都合を調べ、会長・副会長・事務局長の三者で決定することに。

*

これは理事会で話し合われたこと、決まったことのポイントをまとめたものです。議事録が必要な方は、各正会員(都道府県連盟)まで。

理事からひとこと

会長 川添 喜郎

12月12日(日) JHF事務局移転。10年間JAAにお世話になった新橋大村ビルから春日Shimaビルへ。やっとJHFは自前の本拠地を持つ事ができ感無量。新事務局で1月1日開始のフライヤー会員登録業務を中心に、全国のフライヤーへのサービスが展開されます。引越し手伝いの学生連盟の諸君ご苦勞様。

11月29日「スカイレジャージャパン2000 in 関宿」の発会式に参加。千葉県連の萩原理事長と積極的取組みを確認しました。

12月1日、JHF常任理事会&予算編成委員会。来年度の方針・重点・予算を討議。

12月7日、JAA航空スポーツ連絡会に副会長と参加。世界選手権の報告を、半谷PGチーム代表、内田HGチーム代表よりしていただきました。他団体との交流も活発化していきます。

副会長 小林 朋子

事務局の引越しが行われました。総勢11名の学生フライヤーが手伝いに来てくださり、大変助かりました。この場を借りてお礼申しあげます。事務所内は完全に片付いていませんが、事務効率のあがるレイアウトを目指していきます。

フライヤー会員登録は、2000年1月1日からJHF会員となる更新手続を行ったフライヤーへの会員証発行を始めました。これまでとは違った素敵なデザインです。これから更新手続をされる皆さん、楽しみにしてください。

最近、様々な分野の航空スポーツ団体の関係者とお会いする機会があります。共通の悩みや興味を持っていることが多いので、これから協力しあいながら事業を展開するようになるかもしれません。

常任理事 朝日 和博

フライヤー会員会費の回付金に関する正会員の意見の中に、金額をもっと多くしてほしいという希望がありました。それぞれの都道府県連盟を運営していく為にはもっともな意見だと思います。

2000年1月1日、新たに始まったフライヤー会員登録制によって、JHFが従来受けてきた補助金は無くなりますが、それ以上の財務上プラスがあります。これをもって、ここ数年連続して減少している収入を補う事ができてきます。JHFが機能を果たす為には必要最低限の資金を確保しなければなりません。その上で、できるだけ正会員さんに還元できるよう努力したいと考えています。もちろん、これがフライヤーへのサービスに繋がるようであればなりません。

また回付金以外に、都道府県連盟で独自に会費を集めることが難しくなるのではないかという意見がありました。不足分はフライヤーに負担をお願いしなければなりま

せん。連盟の趣旨とその活動内容を説明してご理解をいただく事が必要と思います。

常任理事 関谷 暢人

安全性委員会と教習検定委員会合作のビデオ「ハーネス着水実験」を拝見した。まず関係者の労をねぎらいたい。なかなかシミュレーションすることができないテーマをみごと再現した貴重な映像をフライヤーに提供したことは賞賛に値する。私見ではあるが画面に登場する人物は皆JHF関係者であり親近感をもって見ることができるし、なかでも姿を見せないO氏の掛け声は時々エリアで耳にするきつい言葉そのもので、なかなかリアリティーがあり「手作りビデオ」感を演出していた。

2000年になり会員制度も構築し、組織的に基盤が整い始めている。今後も「フライヤーのためのJHF」として各委員会と協調しながら実になる企画を実行していかなければならない。

常任理事 横尾 和彦

自分の常識(経験)による判断と、真実が異なる場合があります。自分では正しいと思っているのに、周囲(真理)から見ると正しくないのです。

1989年、イタリアのモンテカピオナートでのこと。私のパラグライダーは22m²の当時としては小さい機体。大きい機体の方がよく浮くと信じられていた時代。先に出た女性の機体は27m²。私は「沈下が大きく損をしている」と信じて疑わず、グングン先行機に近付く。ところが行く手の尾根を通過した時の高度は私の方が高い。……???

今の皆さんには当たり前のこと、当時の私の「頭」では当たり前ではなかったのです。

以上、「人生とパラグライディングはおんなじだ」でした。

理事 岩間 雅彦

いまハング教本の原稿を書いています。技能証規程や過去の出版物を読み返してみると、昔は何も考えずに受け入れてきたことがらでも、現時点であらためて考えてみると疑問に感じる点が少なくありません。例えば、実技に関して言うと、技能証規定のパイロットの実技科目にある45度バンクの連続旋回ですが、ターンコーディネーターが難しかった大昔の機体ではこうした技術をわざわざ項目を設けて修得する必要があったかもしれないけれど、今の機体では特別な操作をしなくても簡単にできてしまいます。

学科に関しては、翼の揚力の発生原理をベルヌーイの定理で説明している本が多いのですが(JHFのパラグライダーの教本もそうですね)これが各種の実験結果と合わないことは、航空力学の教科書やFAIの資料でも説明されています。過去においては

外国にも参考になるようなハンググライディング専門の参考資料が少なく、固定翼グライダーの世界から借りてきた知識に頼らざるを得ない部分があったと思います。今回の教本は、技能証規程の見直しも視野に入れつつ、ハングフライヤーの立場から見た実際の技術や知識に、より大きな重点を置いたものにしたいと思っています。

理事 星野 納

最近つくづく思うことは、理事会の審議項目が異常に多いということです。物理的にいって時間内に十分な討議ができるはずはありません。提出された協議・審議の中には、理事会にかけなければならない理由が希薄なものまであります。何が何でも理事会を通しておきたいという真意はどこにあるのか理解できかねます。

JHFの外からばもっと本質的な討議を」という声も聞こえてきます。しかし今は、総合改革の最終段階にあり、整備・整頓の真っ最中で、この状態はまだしばらく続きそうな気配があります。

毎回会議時間を延長して、くたくたになって審議を終えていることをフライヤー会員の皆さまにお伝えしたい。

理事 松田 保子

1999年度の教員検定を優秀な成績でパスした4人にインタビューをしました。皆さん、すでにスクールで指導経験を積んでいるせいか、しっかりした受け応え。彼らのスクーリングの現場を見たくまりました。新教員の皆さん、初めて飛んだ時の気持ちを思い出して、「安全に楽しく」飛ぶことをスクール生に伝えていってください。また、自分のエリアだけを見るのではなく、視野を広く持ってご自身の可能性を上げていくよう努力してください。応援しています。

JHFのホームページがどんどん充実しています。ぜひご覧ください。

理事 松永 文也

師走である。先生も思わず走っちゃう忙しさに相応しく、予算案は大詰め(というか……)競技規則は改正しなきゃいけない、事務局は移転する、県連への回答をしなきゃいけない、仕事は忙しい、法事は重なる、果ては子供が水疱瘡で熱を出す。一枚一枚丁寧に年賀状を手書きして20日前に投函していた小学生の頃が懐かしい! これじゃせっかく新しいハーネスが来たのにセッティングにも行けないし、友達におもしろいと勧められた「シックスセンス」も個人的に大注目の「海の上のピアニスト」も観に行けないじゃないか!

というわけで今回はかなり私事満載、本音続出の理事からひとことでした。

INFORMATION / 大空情報板

スカイスポーツシンポジウム開催される
12月4日・5日の週末、千葉県の上野の日本大学
理工学部船橋校舎で「第5回スカイスポ
ーツシンポジウム」が開催された。

このシンポジウムは、社団法人日本航空
宇宙学会主催、財団法人日本航空協会共催
で開かれているもの。スカイスポーツに関
する一般公演・特別公演のほか、パネルディ
スカッションや懇親会も行われる。一般公
演は、研究等を発表したい人のために門戸
が開かれており、誰でも応募することがで
きる。今回のプログラムは、「人力飛行機の
安定性と運動特性」「近年の風事情」「中
学校科学部における紙飛行機研究の实践」
「日本アルプスにおけるグライダー長距離
飛行気象の解析」等々、幅広い。しかし、
残念なことにハンググライダーとかパラグ
ライダーという文字がない。発表したいこ
とがある人は、次回シンポジウムに応募し
てほしい。



パネルディスカッション。左端が小林副会長。

なお、今回のパネルディスカッションの
テーマは「航空スポーツ発展への方策」で、
JHFの小林朋子副会長がパネリストをつと
めた。

2月に女性滑空パイロットフォーラム
ソアリングスポーツ グライダー・ハ
ンググライダー・パラグライダーでの飛行
を楽しむ女性パイロットが主役の「女性滑
空パイロットフォーラム」が開かれる。

主催は、社団法人日本滑空協会の専門部
会、クロスカントリー・競技飛行委員会。2
月26日(土)午後2時30分から、東京都品
川区の大崎労働会館第5会議室(JR山手線
大崎駅下車、徒歩5分、ゲートシティ大崎
内)。定員80人。参加費無料。

フォーラムの目的は「多くの女性がライ
フワークとしてスカイスポーツに関わり続
けられるよう、空を飛ぶ楽しさを再実感し
たり、互いに情報を交換したりしながら、新
しい出会いやネットワークを生む機会とな
る」こと。話し手は、グライダーでアクロ
バット飛行や記録飛行への挑戦を意欲的に
続けている森中玲子さん、女子ハンググ
ライディング世界選手権をはじめ豊富な競技
経験を持ちフライヤー育成に力を注いでい
る郷田摩純さん、そして、第1回からすべ
てのパラグライディング世界選手権に出場し
た唯一の日本人でありJHFの理事もつとめ
る田中美由喜さん。

フォーラムの前、午後1時から2時までは
グライダーのセミナー「日本アルプスの長
距離飛行」が、また後には懇親会が予定さ
れている。参加希望者は下記に申し込み
を。セミナー、女性フォーラム、懇親会の
どれに参加したいか明らかにすること。も
ちろん男性の参加もOK。

日本滑空協会クロスカントリー・競技飛
行委員会女子デスク、小谷名保恵、TEL. &
FAX.0739-72-5456またはTEL.090-238-28428
まで。Eメールはnaoe@msc.biglobe.ne.jp

PG スチューデントフェスティバル

3月8日(水)から10日(金)まで、長野
県高嶺エリアで「パラグライダー・スチ
ューデントフェスティバル」が開かれる。A級
練習生からXCパイロットまで楽しめる学
生フライヤーの祭典だ。学生連盟に入っ
ている人もそうでない人も、腕に自信のあ
る人もまだまだの人も、ぜひ参加を!

9日・10日は3クラスに分かれて競技。8
日の公式練習日には、プロのパイロットと
一緒に飛んだり、現像講習会も予定されて
いる。

問い合わせ・申し込み(2月10日締切)は
藤木美穂さん、〒116-0002 東京都荒川区
荒川1-48-4 TEL.03-3801-8840 ホーム
ページも要チェック。http://plaza4.mbn.or.jp/
tomissei/para_sf/

検定会開催予定(1999年12月20日現在)

PGP:PGパイロット学科 PGNP:PGノービスパイロット学科 HGP:HGパイロット学科 XC:PG&HGクロスカ
ントリー学科 補助:補助動力学科 PGT:PGタンデム学科 HGT:HGタンデム学科 (いずれも数字は定員)

開催日	時間	開催地	会場	PGP	PGNP	HGP	XC	補助	PGT	HGT	主催者	電話番号
2/27(日)	18:00~20:00	神奈川県横浜市神奈川区	神奈川県民センター会議室	15	15	15	15	1	20	10	神奈川県連盟	0460-3-5391
2/27(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10				阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196
3/26(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10				阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196

大会開催予定(1999年12月20日現在)

JL:ジャパンリーグ対象 PS:ポイントシステム対象(ジャパンリーグ対象、ポイントシステム対象、公認については申
請を含む。)参加資格 XC:クロスカントリー証 P:パイロット証 NP:ノービスパイロット証 B:B級練習生参加可

区分	大会名	日程	開催地	参加資格	参加費	締切
PG	公認 2000 Cooウインターカップ	2/11~13	茨城県八郷町エアパークCoo	XC	20,000円	2/3
	JL 〒315-0157 茨城県新治郡八郷町大字上曾1698-1 エアパークCoo TEL.0299-44-1408					
HG	公認 2000パラグライディング日本選手権つくば	4/12~16	茨城県八郷町エアパークCoo	要問合せ	40,000円	3/31
	JL 〒315-0157 茨城県新治郡八郷町大字上曾1698-1 エアパークCoo 内 日本選手権実行委員会 TEL.0299-44-1408					
HG	公認 ハンググライディング日本選手権大会 in岩手	4/30~5/5	岩手県遠野フライトエリア	XCほか	30,000円	3/30
	PS 〒023-0827 岩手県水沢市太日通り2-3-17 コーポ拓7号 佐藤研二方 日本選手権実行委員会事務局 TEL.0197-25-2197					

JHF 技能証発行数(1999年12月31日現在)

ハンググ ライディ ング	P証	4,838	パラグ ライディ ング	P証	18,233
	C証	6,779		NP証	8,706
	B証	11,371		補助動力NP証	64
	A証	10,784		B証	39,689
	補助動力証	124		補助動力B証	121
	XC証	1,088		A証	43,108
	タンデム証	25		補助動力A証	152
				補助動力証	894
				XC証	3,566
				タンデム証	174

JHF ホームページもご覧ください。 <http://jhf.skysports.or.jp/>

JHF レポート2月号 (No.157)

発行日 2000年1月20日 定価10円
発行 (社)日本ハンググライディング連盟
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11 春日 Shimaビル8階
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312
編集 JHF 企画部広報出版局
印刷 日本印刷(株)
この印刷物は再生紙を使用しています。